

一 刀なり、さきを丸くひらくすべし、竹の皮を付る事ひけふ也、

一 鳥の焼串はかはるべし、さきをけんさきにすべし、本よりけづるもの也、○中略

〔好色二代男〕五 彼岸参りの女不思議

二 王門を出る時、四十三四と見えし女房、地無しの古著物に、金入りの帯して、仲間らしき者につぎつぎの袋持たせて行くに、袖乞數多著きける、袋の口明けて、田樂串を一把づ、やつて通る、貫ひながら、竈は無しと笑ふ、

〔近世畸人傳〕四 堅田祐庵

ある人豆腐の串に貫たるを俗に田樂食食をむるに、此串の竹は遠く來れるもの也といふ、主もまらず、厨下にとひしに浪花より物を荷來る竹をもて削たりといひしなどは、奇といふも餘あり、  
〔尤之雙紙〕下 さす物の玄なぐ  
竹のくしには、でんがくをさす、